

1歳6か月健診後の自閉スペクトラム症 (ASD) リスク児への、かかりつけ医による対応

いずみ 泉 のぶ お 夫

キーワード：自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害 (ASD), ASD リスク児,
1歳6か月健診, Book-based 個別療育, かかりつけ医

要 旨

1歳6か月頃に ASD が疑われる児には早速に問題症状に対する個別療育を開始するのが良いが、日本のそれは未整備である。しかし、個別療育の優れた図書がある。ASD 疑いの段階から、親がかかりつけ医と共に図書に基づき「つながる」、「模倣する」、「発語」や「指差し」などの訓練に取り組む。ほめ方や手助けの仕方などポイントは多い。両側難聴には注意する。適宜、専門医に紹介し小集団療育も行うが、専門医の負担は軽減し、待機期間問題に資する。かかりつけ医に御一考を頂きシステム化を期待する。

はじめに

厚労省は平成28(2016)年度より「かかりつけ医等発達障害対応力向上研修事業」を開始した。専門医が国立精神・神経医療センターで指導者養成研修を受け、それに基づき地元でかかりつけ医(掛り医)等にリスク児の早期気付き、専門医への紹介を促す講習を行うもので、平成30年に参照となるテキストも作られた¹⁾。

他方、日本は既に専門機関への心の問題を抱える児の過集中から受診の待機期間が延長し支援が遅れる状況にある。テキストも可能なケースは掛

り医に発達障害児への対応も求めているが ASD 児への対応の詳細の記載はない。

先般、出雲保健所では管内で子どもの心の相談を受ける掛り医を募った。発達障害に関して、現在、注意欠陥多動障害 (ADHD) に取り組む掛り医はあるが、自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害 (autism spectrum disorder; ASD) については如何であろうか。

筆者は幼児健診に携わるが、医師や保健師が ASD リスク児に気付いた場合、基本的には臨床心理士にバトンが渡される。その児のその後は気がかりであるが知る術はない。筆者は専門医でも掛り医でもなく僭越であるが、特に1歳6か月頃の ASD リスク児の対応は掛り医に願いたいと考えている。詳細を記す。

Nobuo IZUMI

出雲市

連絡先：〒693-0021 島根県出雲市塩冶町909-3

出雲市